

高崎学検定講座

高崎芸術劇場が継承するもの、 進化させるもの

令和6年9月14日(土)

高崎市市民活動センター・ソシアス

国内有数の舞台規模と最新鋭の機能を備えた高崎芸術劇場は2019年9月に開館しました。以来、高崎の新しい都市文化を創り出していくという使命のもと、多彩な公演を展開しています。

この講座では、開館5年という節目に、ラインナップに込められたこの街ならではの心意気などを、これまでの公演の記録とともに振り返ります。

なお、受講生の皆さまの知識、経験を総動員していっしょに考えながら進めたいと考えました。そこで、テキストは「高崎学検定」をイメージした例題形式としました。

回答に際しては周りの方と相談いただくのは大歓迎です。ただし、スマートフォンなどのインターネット検索には頼らずにチャレンジしてみてください。

第 11 回高崎学検定（2023 年）出題から①

≪問 36≫

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

群馬交響楽団は、県内各地や東京公演など県外でも多様な演奏活動を行っています。

本拠地高崎では、今シーズン 10 回の【ア】や元旦コンサート、学生のためのコンサートなどがありますが、2022(令和 4)年から GT シンフォニックコンサートという演奏会シリーズが加わりました。

さらに 2019 年(令和元)年にスタートした群響メンバープロデュースによる小編成アンサンブル演奏会は、群響【イ】という名称のシリーズで、さらなる演奏活動の飛躍を目指しています。

ア：(1) 高崎劇場演奏会 (2) 定期演奏会
(3) 高崎演奏会 (4) 群響高崎公演

イ：(1) 特別編成演奏会 (2) 小編成演奏会
(3) 室内楽演奏会 (4) 室内楽特別演奏会

☆ポイント

- ・オーケストラが身近にある街ならではの日常シーン
- ・群響と劇場がタッグを組んだコンサート・シリーズの可能性

講座のはじめに、昨年の「高崎学検定試験」に出題された問題を例に挙げてお話します。

出題文にある「GT シンフォニックコンサート」はオーケストラの生のサウンドを恵まれた音響空間で楽しめる機会をもっと提供しようと、高崎芸術劇場と群馬交響楽団が共同で企画運営する演奏会シリーズです。

高崎は、私たちの劇場ができる以前からオーケストラが身近にある街ですがオーケストラを聴きたいと思ったときに、気軽に足を運べるステージがある、誰かを誘って行ってみたくなる、そんな演奏会をイメージして企画しました。すでにコンサート当日はそんなお客様で劇場がにぎわっています。

クラシックの選曲は「名曲」のみです。また映像を交えた映画や TV ドラマの音楽、歌手を招いてのミュージカルやオペラ作品の特集などバラエティに富んだプログラムを用意しています。

「オーケストラのコンサートに行きたいけれど、どれを選んでいいかわからない」とお悩みの方に、シリーズの演奏会はどれも迷わずお勧めできます。



「GT シンフォニックコンサート」 (2024 年 9 月)

〔正解 ア：2 イ：3〕

第 11 回高崎学検定（2023 年）出題から②

《問 37》

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎芸術劇場は【ア】年開館、設備の水準が高く評価され連日利用されています。

劇場の役割は、劇場の企画事業、アーティストとの共同企画事業、貸ホール事業とあります。

ライブの共同企画では、民間の【イ】と連携し、ピアニストのボブ・ジェームス氏、ベーシストのロン・カーター氏などを招聘しました。

ア：（１）2015(平成 27) （２）2017(平成 29)
 （３）2019(令和元) （４）2021(令和 3)

イ：（１）東京ビルボード （２）六本木バードランド
 （３）新宿ピットイン （４）ブルーノート東京

☆ポイント

- ・企画事業と貸ホール事業、高崎芸術劇場が開館後の状況
- ・“大物”アーティスト来演はどのようにして実現するのか？

高崎芸術劇場には「大劇場」「スタジオシアター」「音楽ホール」の3つのホールがあります。出演者の要求に応えた高水準のステージを実現できることから、すでに公演の主催者にとっても人気の会場となっています。特に週末はジャンルの異なる公演が3会場同時に行われていることもめずらしくありません。

また、劇場開館の頃は「ついに憧れのアーティストが高崎に来てくれた」といった喜びのコメントが寄せられましたが、最近ではツアー公演など「なぜ高崎公演がないのか？」という声を耳にします。お客様からの劇場への期待がますます高まっているのを実感します。

事業企画を担当するスタッフはクラシック音楽からジャズ、ポップス、演劇、伝統芸能など様々なジャンルの公演企画を練っています。日々、情報収集に努め、劇場に招きたいアーティストのステージにも頻繁に足を運んでいます。

共同企画の公演の中でも定着している「ブルーノート東京」とのコラボレーションによるライブは自身が大のジャズ・ファンの担当者の発案でスタートしました。出演者の選定から広告宣伝、当日のステージ、楽屋のサポートまで担います。



ポプ・ジェームス氏のステージ(2022年9月)

〔正解 ア：3 イ：4〕

《例題 1》

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2019(令和元)年9月20日に開催された高崎芸術劇場「開館記念演奏会」では、群馬交響楽団をはじめ約400名の出演者によりベートーヴェン作曲【ア】が演奏されました。

また冒頭では、開館を記念して【 イ 】氏に委嘱して作曲された管弦楽作品「KERENZAKI」が初演されました。

- ア：(1) 交響曲第3番「英雄」 (2) 交響曲第5番「運命」
(3) 交響曲第6番「田園」 (4) 交響曲第9番「合唱付」

- イ：(1) 千住明 (2) 宮川彬良
(3) すぎやまこういち (4) 久石譲

☆ポイント

- ・ こけら落とし公演には、なぜこの作品でなければいけなかったのか
- ・ 出演者の顔ぶれが表していたこと

群馬交響楽団の草創期をモデルにした映画『ここに泉あり』（1955 年公開）のラストシーンではベートーヴェンの「交響曲第 9 番『合唱付』」が演奏されますが、「第九」の愛称で知られるこの大曲を群響が初演したのは 1956 年です。劇中で演奏しているのは残念ながら群響ではありませんでした。

高崎芸術劇場の「開館記念演奏会」のメインプログラムを「第九」にしたのにはそのような背景がありました。

この交響曲の演奏には大編成のオーケストラに独唱、コーラスが加わります。開館記念演奏会では、群馬交響楽団の出演はもちろんのこと、コーラスは半世紀にわたり活動する「高崎第九合唱団」、さらに地元出身と海外から招聘したオペラ歌手が共演しました。この劇場がこれからどう歩いていくかを示す顔ぶれでもありました。

なお公募招待で鑑賞を募った「開館記念演奏会」は予想を上回る人気で、追加公演も行いました。



開館記念演奏会（2019 年 9 月）

〔正解 ア：4 イ：2〕

《例題 2》

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎芸術劇場は、2019(令和元)年 11 月にイタリアのトリエステ・ヴェルディ歌劇場による【ア】を皮切りに、高機能で幅広い演出に対応する舞台設備を活用したオペラやミュージカルの大型公演が行われています。

2023 年夏にはブロードウェイ・ミュージカル【イ】が群馬県内では初めて海外キャストにより上演され、全 4 公演が満員となるほどの好評を博しました。

ア：(1) モーツァルト「魔笛」 (2) ヴェルディ「椿姫」
(3) ビゼー「カルメン」 (4) プッチーニ「トスカ」

イ：(1) 「オペラ座の怪人」 (2) 「コーラスライン」
(3) 「レ・ミゼラブル」 (4) 「ウエスト・サイド・ストーリー」

☆ポイント

- ・ 大型公演に求められる劇場の条件
- ・ 高崎芸術劇場が選ばれる理由

1961年に建てられた群馬音楽センターは、高崎の文化シーンの中心として様々な音楽や舞台に触れる機会を提供してきました。しかしながら、舞台の広さ高さが足りないことに加えて老朽化や機能の限界により、ニーズがあるにもかかわらずオペラやバレエ、ミュージカルなどの公演がなかなか開催されない状況になっていました。そこで、高崎芸術劇場の開館準備の段階から、誘致に注力していたのがこれらのジャンルのエンターテインメントでした。

ところで、大型の公演には機材や舞台道具など大量の物品が劇場に運び込まれます。大型トラックで十数台分の搬入を限られた時間にこなさなければならないこともあります。そんな作業のスムーズな進行を可能にしているのが、バックヤードの環境です。例えばシャッター付きの搬入口には11tトラックが5台まで駐車可能です。荷下ろししたフロアが舞台に直結することから、ステージ関係者にとっても好評です。

また出演者用の楽屋もアーティストから「ホテル並み」と評される快適さが確保されています。

いろんな面からこの劇場が選ばれています。



高崎芸術劇場の楽屋

〔正解 ア：2 イ：4〕

《例題 3》

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2020(令和2)年はじめから新型コロナウイルスの世界的な流行により、海外アーティストの来日が相次いで取りやめとなり、日本国内でもコンサートやライブ、演劇など多くのステージが中止や延期となりました。

その中で高崎芸術劇場では同年 8 月、「【 ア 】公演」と銘打ち、客席数や演奏時間を抑えるなど感染予防対策を徹底した公演をいち早く再開しました。

感染拡大終息の兆しがまだ見えない 2022(令和 4)年 2 月に、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が起きました。翌年予定されていたウクライナ国立歌劇場公演は開催が危ぶまれましたが、無事に来日して各地を巡り、高崎芸術劇場では【 イ 】との共演も実現しました。

- ア：(1) 3密防止 (2) ソーシャルディスタンス対応
(3) ストップコロナ！対策 (4) 新しい日常

- イ：(1) 群馬交響楽団 (2) 高崎第九合唱団
(3) 高崎市少年少女合唱団 (4) 市内小学生による金管バンド

☆ポイント

- ・「不要不急」という言葉を前に劇場が行ったこと
- ・「未曾有」、「想定外」が起きたときの選択

高崎芸術劇場の開館から半年後、全世界を襲ったコロナ禍の中で、「不要不急」の外出を抑えることが強いられました。劇場は不要不急な存在か？そんな答えを出すことが困難な議論が交わされたのは記憶に新しいところです。

一つ確かなことは、この街にはステージの鑑賞をかけがえのない日常の習慣として暮らしている方がたくさんいらっしゃるということです。

多くの劇場・ホールが活動を停止していた時期に、高崎芸術劇場がいち早く再開した公演には、生のステージを待ちわびていた人たちで瞬く間に定員いっぱいになりました。

またソーシャルディスタンスが求められる中で舞台スタッフが企画したライトアップは最新鋭の機材を用いて趣向で凝らした演出を試みました。彩り鮮やかに夜空に浮かぶ劇場の姿に、大勢の人たちがカメラを向けました。

劇場のメールマガジンでスタッフによる長文コラムの配信を始めたのもこの頃からでした。

劇場という空間を通じて人とつながり合えることはとても尊い営みではないかと思います。ずっと大切にしていきたいです。



劇場のライトアップ（2020年9月）

〔正解 ア：3 イ：2〕

《例題 4》

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎芸術劇場では高崎市出身で【ア】能楽師の下平克宏氏が主宰する能狂言公演「高崎演能の会」を開館以来、定期的に開催しています。

これまで「道成寺」「隅田川」などの人気曲をはじめ、高崎にゆかりある「鉢木」や【イ】といった作品を上演しています。

文楽や落語など伝統芸能の公演機会も定着しており、能「安宅」と歌舞伎【ウ】など、異なるジャンルながら同一の物語を題材とした演目の連続上演も試みられています。

ア：(1) 観世流 (2) 和泉流
(3) 宝生流 (4) 金剛流

イ：(1) 「高砂」 (2) 「八島」
(3) 「石橋」 (4) 「船橋」

ウ：(1) 「仮名手本忠臣蔵」(2) 「義経千本桜」
(3) 「勧進帳」 (4) 「妹背山女庭訓」

☆ポイント

- ・多目的（または多機能）な劇場の強み
- ・ジャンルの枠を超えて、舞台公演はリンクする

高崎芸術劇場の能舞台は、公演を行う際にスタジオシアターに建て込む仮設のものですが本格仕様です。

能楽の人気演目に「道成寺」があります。主役の女を飲み込むようにズドンと巨大な釣り鐘が落とされる「鐘入り」の場面が有名です。高崎芸術劇場では、屋根付きの本格的な能舞台を得たことで、2021年7月にはこの作品の上演が実現しました。

また問題文にある能「安宅」は2023年2月にスタジオシアター能舞台で高崎市出身の能楽師・下平克宏氏により、歌舞伎「勧進帳」は翌3月に13代目市川團十郎氏により大劇場で上演しました。

異なるジャンルで関連性がある作品を短い期間に連続して鑑賞できるようなラインナップを意識しています。新たな気づきに巡り合える恰好の機会となります。



高崎芸術劇場 能舞台

〔正解 ア：1 イ：4 ウ：3〕

《例題 5》

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎芸術劇場・音楽ホールは本格的な響きにこだわった全【ア】席のクラシック音楽専用の演奏会場です。

イーヴォ・ポゴレリッチ、ミハイル・プレトニョフ（以上ピアノ）、イザベル・ファウスト、ネマニャ・ラドゥロヴィチ（同ヴァイオリン）、【イ】（チェロ）といった現役最高峰の世界的演奏家を招き、小ホールならではの親密感を満喫できるリサイタルを開催しています。

また劇場ではコンサートやリサイタルに用いるグランドピアノはスタインウェイ&サンズ、ヤマハ、【ウ】各社の計6台を所有しています。

ア：(1) 3 2 4 (2) 4 1 2
(3) 6 0 4 (4) 7 0 5

イ：(1) ギドン・クレーメル (2) マルタ・アルゲリッチ
(3) ヨー・ヨー・マ (4) ミッシェル・マイスキー

ウ：(1) ベヒシュタイン (2) ベーゼンドルファー
(3) ファツィオリ (4) カワイ

☆ポイント

- ・世界的演奏家をあえて「小ホール」に迎えるねらい
- ・高崎芸術劇場が受け継いだこと

高崎芸術劇場・音楽ホールで主催するリサイタルには、現役最高峰の世界的演奏家を招いています。通常であれば1,000～2,000席規模のホールで行われる公演を、あえて412席の小ホールで行っています。チケットの値段はその分高くなりますが、演奏者の表情や息づかいまでつぶさに感じ取ることができる贅沢さは代えがたいものです。

1994年2月、高崎市文化会館では伝説のピアニストと称されたスヴャトスラフ・リヒテル（1915～97年）を迎えて、高崎では3度目となるリサイタルを開催しました。公演は大々的に宣伝が展開され、例えばJR山手線には「音楽の街 高崎 小ホール（700席）でリヒテルを」というキャッチフレーズを謳った中吊り広告を掲出していました。

この年、リヒテルは全国各地で20数回ステージに立っています。多くの会場が2,000席規模の大ホールだった中で、700席という高崎での公演は異例でした。またリサイタルのために同館はリヒテルが信頼を寄せていたヤマハ社製のピアノを新調しました。この街らしいエピソードではないでしょうか。

私はここに、短時間に約15,000発もの花火をスピーディに打ち上げる「高崎まつり・大花火大会」や、美味しいだけでなく驚くほど盛りがいい当地グルメの「高崎パスタ」に通じる“心意気”を感じます。



リヒテル公演(1994年2月)中吊りポスター

〔正解 ア：2 イ：4 ウ：2〕